

外国人材受入れ事例

地域密着型介護老人福祉施設 田井の里
所在地：真岡市
従業員数：62名

とちぎ外国人材活用促進協議会

外国人の受入状況 2021年1月現在

- 技能実習生のベトナム人2名（女性）を受入れ中（2019年4月から受入れ開始）



外国人受入れの目的・理由

- ・母国の介護水準の向上に、日本で学んだ技術を役立ててもらうとともに、外国人と働くことで、異文化や多様性を受け入れることができる職場を目指したいと考えたため。

外国人の採用方法

- ・監理団体を通じ、書類選考及びベトナムでの面接を経て採用を決定した。面接に当たっては性格面を重視し、柔和で温厚、純真といった、介護業務における適性を備えた人材を選んだ。

受入企業の声

- ・受入れにあたり、業務の指示系統や作業の見直しを行った結果、日本人職員の業務手順の見直しにも寄与した。
- ・受入れ前は不安を持つ職員もいたが、人当たりも良く、コミュニケーション能力も高いため、すぐにその不安は無くなり、今では入居者の方々に慕われる存在となっている。
- ・入浴、食事、排泄の介助に加え、2年目からは夜勤も開始するなど、日本人職員と同じ業務をこなしており、貴重な存在となっている。

受入れや定着を進めるにあたっての工夫

- ・採用決定後、入国までの期間は、インターネット通話で職員や施設内部を紹介し、職場の雰囲気を知ってもらえるよう工夫した。
- ・受け入れるまでの期間、一部職員が地域の国際交流協会のベトナム語講座を受講したほか、全職員が異文化交流研修を受講し、積極的に異文化理解に努めた。
- ・母国の料理が恋しくなることがあると思い、ベトナム料理店に連れて行ったり、日本の文化を味わってもらおうと花火大会に連れていき、浴衣を着せることもあった。
- ・職場の隣に寮を設置したため、プライベートも含めて、職員間の交流が生まれている。
- ・母国との連絡や日本語学習のため、寮にWi-Fi環境を整備し、ノートパソコンを貸与している。

外国人本人の声

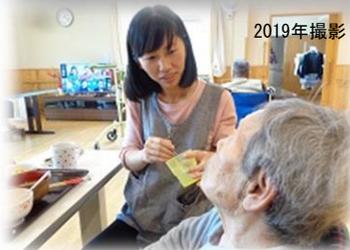
- ・来日前はベトナムの大学で看護を学び、現地のクリニックで働いていた。日本のことは何も知らなかったが、チャレンジだと思い来日を決めた。給料の半分程度は、ベトナムの家族に送っている。
- ・お年寄りの方言が難しいと感じることがあるが、分からないことは他の職員に聞くことにしている。現在は、N1の取得を目指しYouTubeで日本語を勉強している。
- ・職場の人は優しく、他県のショッピングモールに買い物に連れて行ってくれることがある。
- ・故郷の雰囲気と似ていることもあり、栃木県のこと好きだ。



2019年撮影



2019年撮影



2019年撮影

